

1. ハイウェイオアシスの整備に至る経緯

(1) 計画地の地域特性

- ・ 計画地を含む埼玉県川口市北東部は、東京都心から 20km 圏にあるにもかかわらず、見沼田圃（たんぼ）に代表される豊かな自然環境に恵まれ、江戸時代に関東郡代を務めた伊奈氏の陣屋跡地が存在するなど歴史文化遺産を有するとともに、赤山の枝ものや安行の植木を始めとする都市農業の盛んな地域です。
- ・ また、川口市立グリーンセンターや川口緑化センター等の観光・集客拠点があり、これを支える首都高、東京外郭環状道路、国道 122 号線等の幹線道路網や東京メトロ南北線と直通運転を実施している埼玉高速鉄道等の交通インフラの面においても高い利便性を有しています。
- ・ 川口 PA は、東北方面から首都圏への玄関口にある緑豊かな PA で、現在でも、年間約 100 万台（約 200 万人）の方が利用しています。

(2) ハイウェイオアシスの整備に至る経緯

- ・ 川口市は、広域的な集客を確保する観点から、公園と川口 PA とを連結し、一体的に整備を行う地域拠点整備事業（ハイウェイオアシス）について、首都高等の関係機関との協議を進めてきました。
- ・ 川口市において、平成 24 年 3 月 1 日、『広域的な集客性に配慮した「水と緑のオアシス空間」の創出』を計画のテーマとし、自然環境や歴史文化遺産を活用した、地域の振興や都市農業の活性化にも資する公園についての都市計画決定が行われたことを踏まえ、川口市と首都高は、ハイウェイオアシス整備を協力して推進することとなりました。

2. 今後の整備方針

(1) 整備の基本的方向

- ・ 川口 PA を核として、『広域的な集客性に配慮した「水と緑のオアシス空間」の創出』を計画テーマとした地域拠点整備を促進するとともに、首都高速道路をご利用されるお客様の一層の利便性向上を図ります。

(2) 施設整備の方針

- ・ 地域振興及び首都高速道路をご利用されるお客様の利便性向上の観点から、高速道路を降りずに公園や地域を散策することができるように、川口 PA と公園を連結し、一体的に整備（ハイウェイオアシス）します。これにより、川口 PA の駐車機能の拡充にもつながります。
- ・ 公園から川口市立グリーンセンターや川口緑化センター等の観光・集客拠点への回遊性を確保するため、現在の川口 PA の休憩所の一部を候補地として、周遊バスの発着所を整備するとともに、非常災害時における防災拠点としての整備を検討します。
- ・ これに伴い、現在の川口 PA の休憩所の一部を廃止し、公園内に新たに便益施設（飲食・物販等）及び休養施設等を設置して、公園利用者、高速道路利用者が共に利用可能となる施設の整備を検討します。